



中小企業の明日を支える人材が集まる 中小企業支援士協会報

発行：中小企業支援士協会2026年3月23日（月2回発行通番第107号）

中東情勢から目を離さず警戒しましょう

皆さんこんにちは、中小企業支援士協会代表 落藤伸夫です。中小企業を支える皆さんにメッセージをお送りします。

2月28日、米トランプ政権はイスラエルと共にイランへの大規模な軍事攻撃を開始、両国は現在、激しい衝突状態にあり日に日に情勢は変化しています。「とはいえ対岸の火事だ。そんなに気にすることもあるまい。」このような感想も聞こえてきますが、油断は大敵だと感じています。

筆者は2008年のリーマンショック時に日本政策金融公庫 総合研究所に勤務していました。信用保証を中心とした金融事情を担当していたので、当初（日本語の情報が得られる範囲で）から関心を持って情報収集していたのですが、当初は「対岸の火事だ」との意識があったと思います。しかし日本にも波及し、大きな影響を与えたことは皆さんもご存知の通りです。

「ウクライナとロシアの衝突によって一部産業資材の不足や諸物価の値上がりがあったて翻弄された。同様のことが起きるのだな。」それ以上の影響があるかもしれません。今回の紛争地域は中東、日本が原油供給の9割以上を頼る地域です。高市首相が訪米でアラスカ原油融通の約束を得たと報道されていますが、輸送や精油の関係上、すぐに潤沢な供給があるとは考えられません。深刻な原油不足に陥る可能性があります。

原油は燃料、樹脂製品など多岐にわたった利用されるため、その供給が滞る影響は甚大です。早まった対応も弊害が多いので、今のところは事態を注視して警戒することになるでしょう。販路拡大などを比較的短期間に取り組めるなら始めても良いかもしれません。支援者としては油断することのないよう、顧客企業・経営者を支えたいと考えています（代表：落藤伸夫）

協会活動報告

【未梱コラム】新たな産業革命期を乗り越えるには（2026/3/2）
<https://www.innovations-i.com/column/ctf/87.html>

【未梱コラム】新たな産業革命期を乗り越えるには（2026/3/9）
<https://www.innovations-i.com/column/ctf/88.html>

【事業性評価支援士協会note】<https://note.com/financing>

支援雑感

先行き不透明な時期の「準備」

では、このような状況でどのような準備ができるか？最終目標は「危機に突然死しないこと」で、そのためには「資金をキープすること」と「危機時でもできること、危機時にしかできないことを予定しておくこと」だと考えられます。

突然死しないためにまず現状認識の精度を上げましょう。現預金残高と資金繰り（何か月持つか）や商品在庫・仕掛在庫（何か月続くか）を確認します。

次に最悪シナリオを描きます。売上の3割・5割減少、主要取引先の事業停止、資金調達できなくなった場合などの資金繰りを想定、対応策としての固定費削減、不採算事業撤退、資産売却の順番などを設計しておきます。

加えて不況でも成り立つビジネスを検討しておきましょう。BtoBよりもBtoCの方が需要は底堅いとされており、販路拡大策の検討を始めたいものです。

資金調達も用意しておきましょう。危機対応特別制度が設けられたらすぐに申込めるよう金融機関・担当者とコミュニケーションを密にしておきます。

読書感想

「油断」

（堺屋 太一）

この本は高校生の時に読み、今回改めて手に取りました。中東で戦争が発生、ホルムズ海峡が約200日間封鎖された場合に日本はどんな影響を受けるか、赤裸々に描かれています。（当時の状況だと）日本自体が戦争に巻き込まれた場合ほどの損害が生じるとされています。当時に比べて情勢は大きく変化しており（例：石油備蓄は当時60日程度だったが現在は250日を超えている）、この小説に描かれるような状況が同様の時間軸で発生すると考えると逆に惑わされてしまいがちですが、原油が日本における産業そして生活の隅々にまで浸透しており、その供給が滞って産業が活用できない、生活者が手に入れない事態が続いた場合の深刻度が理解できます。

企業経営では「リスク管理が重要」と言われますが、あまり実践されていないと感じます。なぜ取り組まれないのか？リスクがリアルに感じられないことが、一つの要因だと考えられます。「こんなことが起きる可能性があるのか、もし起きたら大変なことになる。備えをしておかねば」と感じるのがスタートになるでしょう。今のタイミングでお読みになることをお勧めします。

発行者：中小企業支援士協会

Small and medium Business Supporters Association

参加団体：事業性評価支援士協会

（中小企業支援士事務所StrateCutions内）

連絡先：info@besa-sc.com（担当者）落藤伸夫